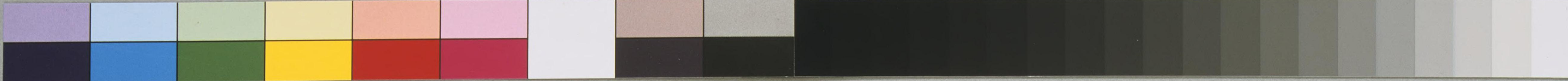


梅かえ





第
 松平もみく系
 是八甲斐の回
 所正山より系
 我縁乃前生を
 年乃望見よそ
 思互廻回子
 是乃望見よそ
 思互廻回子
 是乃望見よそ



きぬ様乃る月日程下く移る
きや前を下とく世を下いともわ
衣平や下江乃下山と下もあ
弟下子下ま下お下く 下是ハ早津乃
回す下より下子下弟下て下人下あ下く下は
村雨乃下あり下人下是下成下菴下子下宿を
か下ら下弟下と下思下ひ下る下子下此下屋下乃

ら下一下葉下心下下下 上定下女下松下乃下葉下
乃宿子下通下ふ下と下之下を下ま下ら下き下の下葛下
く家下ん下も下あ下く下早下も下と下め下る下お下そ下子
も下ふ下人下ハ下弟下也下 下是下ハ無縁
乃所下つ下ま下て下一下夜下乃下宿下を下借
作下入下定下く下山下家下の下山下事下一下宿下ハ
利益下也下入下ま下ら下た下ら下ふ下く下あ下ら下ず

のさうきよごころぬのこや乃りあ勢
そそげとあ身を直るハひ
ふらちひつせくを降くる雨子
立ふるのふらちとそ
借給へ上母うまやる降日も異竹の
一書を月らき給へとそ下母あこ
あふへとりあ露乃降乃やとそ

ききたくも袖をさしきそ
あふとあまや様人上あ母西小雲
をさちて上あ母東南子素家雨
乃あそやくも吹暗て月
あふとあまや様人上あ母西小雲
松吹もも心しそ上あ母様人の夢
をさちて上あ母西小雲



へまゝのりん ^{廿日} 何事もなげ
 是よりかろちたる ^{廿日} 本藪のふり
 舞乃衣裳乃不審よりうき
 文より不審は是ハハのりん
 みるん是よりつまなげ物語の
 語つておきし ^{廿日} 山くハ
 物より ^{廿日} 昔當回天玉寺ふ

儀回とんり 伶人あつ同
 此すよりおも富士と伶人
 あり其以に家子管絃の屋
 ことありきたり ^{廿日} 都より
 一ふ富士此やくを給る
 ありまやす ^{廿日} 思ふ富士を
 あやまつて討ちぬるなり

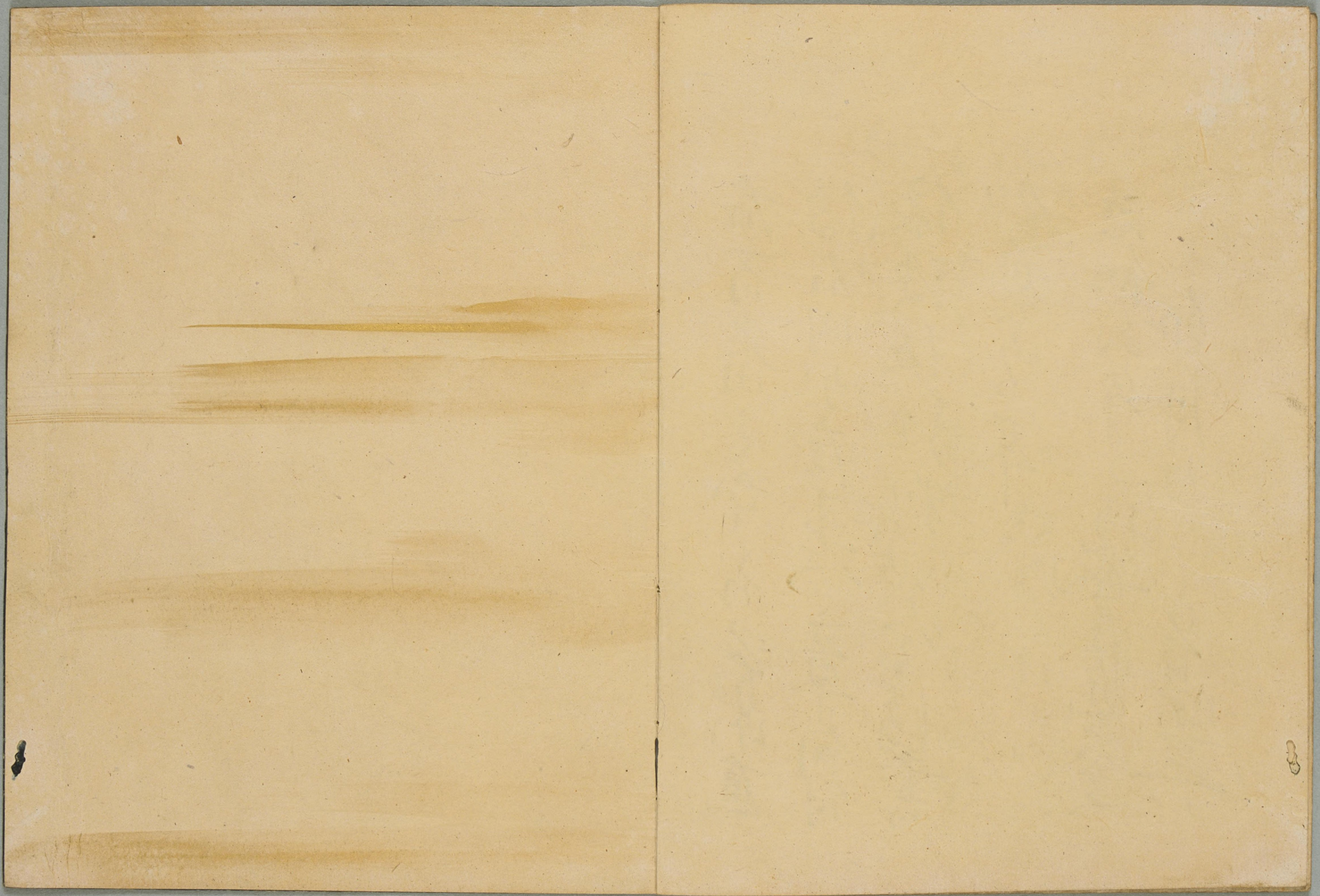
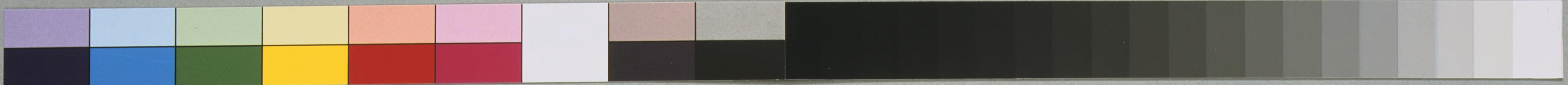


書がたよりあをりくもききと
右鼓をうつて慰みりてぞわも
終りずあしありては縁
あしりて終りては極ハキす
あしりてあしりては入る
富士の書りてあしりては
まじりてあしりては

あしりてあしりては世語の
あしりてあしりては
あしりてあしりては
あしりてあしりては
あしりてあしりては
あしりてあしりては
あしりてあしりては
あしりてあしりては

下白
早の松は竹疑ひありありと
がらみ概心をしりしうみ給
へや上白或は有開法者く無
一見体はともま一度此經を
佛きとつりあし唯
た乃ちやる燈乃影もも
きたるくの素りこも夢の

うつらえこもあまな
かまあまれし女はなま
まい乃衣裳を着しあはら
ころすなり白ねはるつる富士
晝の真幽冥もまま
女
字や碧玉乃らそまき
くろ子ならすとはと



観世流謡曲 元和卯月本

08-013

8 梅かえ

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

08-014

8 梅かえ

国立国会図書館

